

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市サンホーム		
2 指定管理者	特定非営利活動法人グループゆう		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 3,116人(前年度比115%) 令和3年度 2,715人(前年度比115%) 令和2年度 2,356人(前年度比 81%)		
	《事業》 児童発達支援事業		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 69,482千円 (64,754千円) ・ その他市が負担した費用 196千円 (752千円)		
	《収入》 ・ 使用料収入 39,442千円 (33,389千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)		
6 利用者の声	《実施状況》 令和5年2月、指定管理者の協力のもと、障害者支援課で利用者アンケートを実施した。		

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営に当たっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の子育て支援機関と連携し、地域支援の充実にも積極的に取り組んでいる。	42/42
II 施設の運営管理体制	事業計画に基づいた運営がなされている。 法人全体で毎年度当初に研修を行うなど個人情報保護の取り組みを推進している。 各種マニュアルの整備や、利用者の安全に配慮した運営に努めているが、避難訓練が毎月ではなく2か月に1度の実施となっていた。	23/24
III 施設・設備の維持管理	施設・設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 使用後は速やかに消灯、空調設備を切るようにするなど、環境に配慮した取り組みを積極的に行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、定期的なミーティングや職員会議・研修等により情報共有に努めているほか、新人育成においては、メンター制度を導入するなど、人材育成にも力を入れており、職員全体でサービス水準の向上を目指している。 事業者独自での利用者アンケートを学期の節目や行事の都度実施し、運営に対し常に改善を心掛けている。 また、地域の保護者や子育て機関からの相談対応についても、相談者が気軽に相談しやすいよう、一定の曜日に相談窓口を設定し、相談員がいつでも電話を受けられるよう体制を整えている。	27/27
V 施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、利用者個々の特性に応じた支援の提供を心掛けているほか、2か月に1回保健だよりを発行し、利用者の健康管理に配慮した取り組みを積極的に行っている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人グループゆう）による自己評価》
<p>1コロナ禍における事業継続:感染防止策の徹底と安全・安心な療育の工夫により、活動や行事等も中止から実践へ舵をきった。</p> <p>2地域支援モデル事業と既存活動の両立:モデル事業(初期支援プログラム・ペアレントプログラム)を主軸にし、それ以外の日を既存の地域支援活動(親子サロン等)に充当した。児童館とのカンファレンスや保育所等の卒園児のバックアップ支援等を定着させ、地域での機能の充実を図った。</p> <p>3医療ケア児等の療育支援の充実:医療ニーズの高い児童の増加に伴い、看護師等の人員体制を整備しクラスを増設した。日頃の体調管理や医療指示書での確認、職員研修、衛生環境に配慮し、緊急時対応を整備した。長期療養生活からの転換、あそびや生活等QOLの充実に向けて取り組んだ。</p> <p>4保護者勉強会の充実と見直し:「母子療育の重要性と保護者の学び」を重視し、入園時期によらずに均質な勉強会を実施した。医療ニーズの高い児童向けには、将来を見越し「地域での相談や制度」等のテーマも新設した。</p> <p>5公認心理師による子育て支援と内部研修の充実:週1回保護者の心理相談日を設定し、親支援の強化に取り組んだ。メンタル不調や特性を抱える保護者自身との関わり方については、公認心理師による職員研修を定例化した。</p> <p>6地域の人材育成、連携強化の取り組み:インクルーシブな保育をめざし人材育成が急務と考え、地域の保育所・幼稚園支援者(16施設)向けに「療育の現場を見てみよう」という研修を企画した。また、家庭健康課の保健師13名の療育見学により今後の連携強化の糸口となった。多様な家族ニーズを背景に保育所や児童発達支援事業との支援会議などを開催し、重層的な支援体制の整備に努めた。</p> <p>7虐待防止・身体拘束適正化の活動:法人内では令和3年度から虐待予防委員会を立ち上げ、年3回研修を実施した。委員会通信やリーフレットを通して方針・考え方を説明した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和4年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従っておおむね適切・良好に行われた。</p> <p>児童の障害特性に応じた療育を工夫して行っており、同法人で成人施設を運営している経験を生かし、子どもの将来を見据えた支援の提供に努めている。保護者勉強会を定期的に開催し、児童の進路についても相談しやすい体制を整えるなど、家族支援の充実に取り組んでいる。</p> <p>また、卒園児の進路先に訪問し、進路先の職員と情報共有を行ったり、合築の児童館のほか、近隣の子育て支援センターなど、地域の施設との交流・連携促進を図り、地域の療育機関としての役割を果たすための取り組みを積極的に行っている。</p> <p>ただし、施設基準上は月1回以上避難訓練を実施しなければならないところ、基準の確認不足により、2月に1回程度の実施としていたことから、今後は正しく基準を理解し、運営に努めるよう指導した。</p> <p>以上により、利用児童への発達支援だけでなく、家族支援や地域支援を含め、安定した質の高い支援を提供し、おおむね良好で円滑な管理運営を行っていることから、総合的には高く評価できる。</p>	A

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):健康福祉局障害福祉部障害者支援課